



第一の転機
消化器内科のがん患者
さんとの出会い

第二の転機
緩和医療委員会の
リンクナースとなる

24～29歳
**消化器内科へ
配属**

消化器内科病棟へ配属。治療期や終末期の消化器内科のがん患者さんに関わる中で、がん看護に興味を持つ。がん看護に関する院外研修やセミナーに積極的に参加し、知識を深めていく。

28歳～
**認定看護師を
目指す**

緩和医療委員会のリンクナースとなる。専門的な知識や技術を習得したいと思い、がん看護関連の認定看護師への道を目指す。

30歳～34歳
**呼吸器内科へ
の異動**

呼吸器内科病棟へ異動。肺癌や慢性呼吸器疾患の患者さんと関わり、どのようにしたら苦痛症状の緩和ができるのだろうかとかケアに悩む。緩和ケア認定看護師になることを決意する。

36歳～現在
**緩和ケアチームの
一員として活動**

認定スクール修了後、呼吸器内科病棟へ復職。肺癌の患者さんへのケアを実践。呼吸器内科病棟に所属しながら、毎週火曜日の午後、緩和ケアチームの一員としてラウンドに参加し、患者さんを訪問。緩和ケアチームでの活動をし、日々奮闘中。

田中 千晴さん
呼吸器内科病棟勤務

2005年：山形厚生看護学校卒業
2005年：仙台厚生病院入職
2016年：緩和ケア認定看護師資格取得

がんの終末期にある患者さんに関わる中で、どのようにしたら苦痛症状が軽減するのだろうかとかケアについて悩むことが多くありました。また、治療では改善されない苦痛症状も多く、患者さんの苦痛をできるだけ緩和したいと思い、緩和ケア認定看護師を目指しました。現在は呼吸器内科病棟に所属し、日々患者さんのケアを行っています。緩和ケアの対象となる患者さんは痛みをはじめ様々な苦痛症状をもって生活をされています。患者さんの症状やつらさをできるだけ緩和し、患者さんやご家族の思いや希望を聴きながら、その人らしく生きていけるようにお手伝いさせていただきたいと考えています。